
手をつなぐ

朝衣海美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
手をつなぐ

【Nコード】
N5352I

【作者名】
朝衣海美

【あらすじ】
いつもの帰り道、淡々とすぎる毎日の中で抱いた淡い恋心を強気な性格が邪魔をしてなかなか言えない女の子の話。

少し肌寒くなる10月の始め。私はある男に恋をした。

「ゆんち、なにしてんのさ」

窓の下を眺めるあたしに、いつものように声を掛ける男。

それがあたしの恋の相手。

「べつつに〜。なんにも？」

「あー、まあたちーくんでも見てたんでしょ〜」

こいつはいつも、あたしの恋の邪魔をする。

「でもだめ〜、ゆんちは俺のだから」

こんな調子でいつもいつも、邪魔をする。

「いつからあんたのになったのよ」

「ずうつと前から。俺のだよ」

無邪気に笑いながら、あたしを見る。

呆れた顔をして見せて、肩で大きいため息。いつものこと。

「ゆ〜んち、ちゅーしようよ」

「は!？」

目を閉じて、口を尖らせた彼は、どんどん迫ってくる。その表情が可笑しくてあたしは思わず吹き出した。

「何で笑うんだよ」

ぱちつと目を開き、むっとした表情であたしを見つめる。

「だって、あんたの顔可笑しくって」

ひとしきり笑うと、あたしは満足して、帰り支度をする。と席を立つ。

ぼつんと残るあいつに、あたしはドアのところから振り返って声を掛ける。

「帰らないの?こーた」

声を掛ければ明るい笑顔、犬のように尻尾を振っているように走ってくる。

家に帰ればご飯のイイ匂い。すぐに着替えてご飯を食べる。
お風呂に入って、部屋に戻ると、こーたが窓からお休みのあいさつをあたしに向けて、イツモどおりにした。あたしもそれを返すと、カーテンを閉めた。

「なんで、あんな顔するのよ」

考えるだけばかばかしい。

あんな態度はこーたにしか出来ない。

いいところも悪いところも全部知ってる。

かつこよかったこともかつこ悪かったことも全部知られてる。

そんなこーた以上の男がいるとでも・・・？

考えるだけばかばかしい。

「明日の帰りは、手でもつないでやるか」

喜ぶこーたの顔が目に浮かぶ。

果たして実行できるのか？ゆんちの明日はどうなるやら・・・。

そんなことを考えながら、今日を終える。

また明日、こーた。おやすみなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5352i/>

手をつなぐ

2011年1月20日01時05分発行